

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200913		
法人名	社会福祉法人 養和会		
事業所名	グループホーム仁風荘一番館		
所在地	鳥取県米子市上後藤8-9-23		
自己評価作成日	令和6年3月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3170200913-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族の方々に安心していただけるよう職員間の連携を大切にしている。日課を押し付けずゆったりとした時間を感じてもらいながら、それぞれの希望や安らぎを得られるよう常に職員が寄り添いながら支援を行っている。
 コロナ感染症対策も緩和され、利用者と家族の対面での面会も再開し、顔の見える繋がりを大切にして支援を行っている。

開設して20年になるホームは、重みのある平屋作りで回廊、中庭のある作りとなっています。利用者の高齢化に伴い介護の依存度が高くなり、認知症自立度の平均もⅢaレベルとなってきたり、事もあり、思う様に外出や馴染みの関係作り等多く支援が必要な状態となってきました。医療依存度が高くなると支援が難しい状況でも、家族や本人の意向を受け入れ、終末期の支援がなされています。
 本人や家族の意向を第一に検討しケアの提供がなされているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につきやすい場所へ掲示し共有している。理念を意識してケアを行うように常に心がけている。各フロアの理念も毎日唱和している。	毎朝朝礼時に職員が法人理念を唱和し、日常的にケアに活かせるよう心掛けておられます。又ホームの独自理念も唱和され日々取組まれています。理念に基づいた毎日の目標を作成し実行しておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H30年度より自治会に加入。コロナ感染症対策で地域行事が減っているが、自治会と相談し一斉清掃など日時を柔軟にし参加している。 コロナ感染緩和により地域住民と懇談会などの再開を検討している。	法人全体として「地域貢献」に積極的に取組まれています。事業所としては、自治会に加入し、地域行事、一斉清掃等に参加しておられます。コロナ5類移行に伴い、日常的な交流再開を検討しておられます。公民館祭への作品出展は継続しておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族サロンに参加し施設内で行っている機能訓練等を伝えている。 認知症サポート研修に参加し認知症の人の理解と伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回運営推進会議を開催し、事業所の利用状況、取り組み内容について報告し意見交換を行いサービス向上にいかしている。身体拘束についての報告も行っている。コロナ感染の拡大で開催出来ない時は紙面開催としている。	定期的に行われています。事業所内の報告にとどまっていますが、意見交換を行い、サービス向上に活かせるよう取り組んでおられます。	曜日やテーマなど、変化を持ちながら開催していくと、さらに多様な意見が引き出せるのではないかと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分な連携とはいかないが、利用者の問題解決等の為に相談を行っている。認定調査の委託も受けている。	法的な事や利用者の相談事での問い合わせにとどまっています。連携が必要な事例に関しては、適宜対応して頂いておられます。介護認定調査員の委託も受託しておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月委員会を開催し安全対策や困難事例等の検討を行っている 研修の参加や勉強会を実施し身体拘束について理解し拘束を行わないケアに取り組んでいる。	法人内研修はじめ事業所内での研修、毎月の委員会等で研修、勉強会・検討会が行われています。身体拘束のないケアに取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月委員会を開催し各フロアでの問題点、課題を検討している 研修に参加し虐待防止について理解し、虐待や不適切な対応がないか職員全員が注意を払っている。	法人内研修はじめ事業所内での研修、毎月の委員会等で研修、勉強会・検討会が行われています。虐待や不適切な対応がないか職員全員が注意を払っておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での権利擁護等の研修に参加し学ぶ機会を得ている。制度を理解し活用できる機会があれば支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご都合に合わせて時間をとり説明し理解・納得を図っている。利用時に起こりうるリスクについても詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の品質管理委員会にて、顧客満足度アンケート調査、ご意見箱の設置を行い、意見苦情についての対処方法、改善結果についての報告を玄関に掲示している。ご家族には施設訪問時等に意見・要望を聞くようにしている。ご利用者には日々の会話などから反映出来るよう努力している。	利用者には日々の関わりの中で確認しておられます。法人が行う顧客満足度アンケートや家族等の面会時に意見や要望を引き出せるよう心掛けておられます。頂いた意見や要望に対する対応策は事業所玄関に掲示して公表されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、各フロア会議を毎月実施。意見や提案を求める機会を設けている。日頃から職員とコミュニケーションを図り話しやすい環境作りを心がけている。管理者が法人内連携会議に出席しグループホームの意見・要望を伝えている。	毎月開催されているリーダー会議やフロア会議等に確認されています。出た意見については、管理者が法人内の連携会議で検討されています。施設長は日頃より職員とコミュニケーションを取るようになされ、意見等の吸い上げが行なわれています。	法人への反映は時間を要することもあります。根気よく事業所の意見や要望を伝え、反映して頂ける事に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設けている。年2回人事考課に沿って、個人面談を行い、職員のモチベーションが高めれるよう配慮している。	法人として人事考課制度が導入されており、年2回の面談により個人の目標達成状況、研修希望、資格や取得希望について確認が行ない、職員のやりがいにつなげておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半期ごと「目標管理シート」を作成しそれぞれの目標を設定し、職員を育てる取り組みを行っている。資格取得や能力向上の為の研修や勉強会に参加できるよう配慮している。	人事考課の際の「目標管理シート」を職員一人ひとりが作成することにより目標達成に向け取組まれて、希望する研修参加や資格取得に向け法人による応援体制も構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症拡大以降、他法人の事業所との交流を行っていない。今後他の事業所との交流を再開していきたいと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、本人の生活状況を把握したり、困りごとなど事前に確認するようにしている。環境の変化に対する不安を少しでも軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限り相談ができる時間を作り、ご家族の思いなどを理解できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人や家族の要望・状況等を十分に把握し、グループホームで出来る現状での支援の内容を理解していただき、場合によっては法人内外のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は食事、洗濯、掃除などを一緒に行ったり、昔の風習や季節ごとの行事などを取り入れ、ご利用者の思いを共感し、支え合い感謝する気持ちを持つ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を随時電話や面会時に行っている。お手紙や写真など毎月送付し様子を伝えている。 感染対策で直接面会が出来ない時はZoom面会や窓越し面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症拡大のため友人、近隣の人達の訪問は減っているが、面会希望のあった場合は玄関先ではあるが本人とパーティーション超して短時間の面会を行ってもらっている。馴染みの場所等への外出再開に関しては検討中。	コロナ禍の中では家族、友人等の訪問は減少していましたが5類移行は徐々に増えています。馴染みの場所への外出は検討中です。家族の面会等は部屋への出入りはまだできませんが玄関先でのリアル面会は行っています。また、不穏になられた利用者の意向で実家へのドライブ等が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	料理の盛り付け、後片付け、掃除、洗濯などなど共同で行ってもらったり、それぞれの力を発揮でき、支え合えるような場面をつくっている。今後は外出の機会も作り、利用者同士が共に喜び楽しむ事が出来るよう働きかけていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の身体状況や習慣や好み、ケア時の工夫などの情報を伝えている。相談時には、話を聞き知りうる知識の中で解決に向け援助している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりわりのなかで信頼関係を築き、利用者の日頃の表情や、行動、話の中から小さなことでも職員全体で共有することで思いを把握し意向をくみとれるよう心がけている。	チェックシートや日々の関わりの中で意見や意向を把握できるように取組みが行われています。利用者のちょっとした言動や変化も見逃さず汲み取れるよう心掛けておられます。	意向等より利用者の生きがいにつながる様に心掛けられると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、これまで歩んできた生活歴などを把握するよう努めている。本人から知り得ない情報はご家族などの協力を得て収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録などの情報を活用し、職員間でコミュニケーションを図りながら、一人ひとりの生活リズムや、現状の様子を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を基に職員間でカンファレンスを行い計画立案に努めている。	利用者の担当職員が素案を作り、関係者で話し合い本案につなげておられます。モニタリングや家族の意向も加味した内容となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に毎日実施した事柄を記録し、ケア開始前に確認を行っている。申し送りノートを使い情報共有に努めている。	タブレット、パソコン入力導入され、日々の活動等が記録され、勤務開始時に内容確認してからケアに入られます。また、重要な事項については申し送りノートを確認しておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに応じて、出来る範囲の支援方法を考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやコンビニ、美容院、病院受診をすぐに利用しやすい環境。敷地内にレストランやパン屋があり利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する在宅時からのかかりつけ医への受診・往診に対応している。又、家族が受診同行する場合にも不安のないように情報提供を行ったり必要時は職員も同行している。	利用者・家族等の希望する在宅時からのかかりつけ医による訪問診療が継続されています。歯科や眼科等の受診時は、家族が同行が基本とされており、普段の様子や必要な情報を提供出来る様に家族や病院と連携が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院より看護師の訪問があり、介護職は、日常の気づきや異変時等、医療面に関する相談が出来、互いの連携により適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関やご家族と情報交換や相談を行っている。退院時も病院関係者や家族との連絡を密にし再入居後に安心して生活が出来る様情報収集を行い準備出来ている。	入退院には、医療連携室を連携し、入院生活が安心して送れるよう情報提供が行なわれています。退院の際には退院カンファレンスにより、退院後の過ごし方についても指導頂いております。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ケアプラン説明時、状況の変化があった時などに、今事業所でできることを説明しご家族の意向を確認しながらチームで共有し支援している。	現在ホームで終末期の事例が進行していません。ホームに看護師が常駐しておられない為、医療依存度の高い事例に関しては、対応が難しい場合もある事を入所時に説明をしております。適宜、家族や本人の意向等確認し、主治医とも連携を図り個々に対応しております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え連絡・対応方法についてマニュアルを整備している。法人内の応急手当で普及員養成講習修了者により、定期的な勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し、地震を想定した訓練も含め、避難訓練を実施している。緊急伝言ダイヤル使用を実際に行っている。大雪や停電に備えストーブ、カセットコンロなどを常備している。自治会の方々にも避難訓練に参加してもらっている。	BCP(事業継続計画)が作成されています。非常災害時の対応や避難訓練の実施に努められています。自然災害にも備蓄や想定される備品の準備も出来ておられます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄に関する支援については、利用者の自尊心やプライバシーに配慮し、声かけや対応を行なっている。面会もプライバシーが保てるように配慮している。接遇についての勉強会を実施し日頃から意識するよう努力している。接遇目標を唱和している。	個々の自尊心やプライバシーに配慮のあるケアがなされており、特に声掛けの際に注意されています。また、接遇の勉強会も実施されており、ホーム独自の接遇目標も毎日唱和し気を付けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスの原則にある「日課を押し付けず意志を尊重し 選択肢を多く提供します」を目標に、本人の思いや嗜好を把握し、自己決定して頂けるよう依頼形の声かけや、一人ひとりにとって理解しやすい声かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はあるが、その日の状況や利用者のペースに合わせ、柔軟な支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性を理解し、本人らしさが継続出来る様に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスへ注文しているが、行事や季節ごと特別メニューを提供したりと見た目も楽しめる食事提供を心がけている。近隣の食事処より季節感のあるお弁当を注文することもある。	通常はホームでご飯、お汁が用意され、おかずは配食サービスを利用されています。行事食や季節のメニュー等は、職員と一緒に手作りしておられます。利用者の方に出来る事はお願いしておられます。訪問当日は、ぼたもち作りされており、自分の分を丸めたり、あんこを一緒に付けたりしておられました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は実施記録に記載している。食事や水分量の少ない方に対しては、果物やおやつ、好みの飲み物、ゼリー等で摂取を工夫している。また、本人にあった食事形態を工夫し提供している。管理栄養士に参加してもらい毎月栄養改善について話し合いを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、自分で出来る方には声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎や感染症の防止等に努めている。口腔ケアの勉強会に参加し手技や利用者にあった物品や使い方を習得しケアに活かしている。	口腔ケアについては、利用者それぞれの状態に合わせた支援が行われています。声掛け、見守り、仕上げ等が行なわれています。義歯の方については就寝前に消毒しておられます。手技や利用者にあった物品や使い方等の口腔ケアの勉強会に参加しておられます。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方に対しては排泄状況を把握し、利用者の様子やサインをキャッチし、自尊心を傷つけないようさりげなく誘導している。日中は出来るだけトイレでの排泄を支援するために努力している。	職員はプライバシーに配慮し、リハビリパンツを利用しているも、出来る限りトイレでの排泄に努められています。夜間、体調や症状に配慮しながら、覚醒している状態であれば、排泄介助等の提供が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方については腹部状態を観察し、下剤だけに頼らず、食事のバランスや水分、運動量の調節や見直しなどを行い、自然排便を促している。排泄状態は実施記録に記載している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日(その時)の状況や希望時間、体調等に合わせてゆっくり入浴をして頂けるよう配慮している。	月曜日から土曜日、基本週2回の入浴支援がなされていますが、利用者本人の体調や拒否が強い時は、適宜日程の変更や清拭に変更する等の対応も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごして頂くことで、夜間心地よく眠れるよう生活リズムを整えている。又、一人ひとりの表情や体調等を考慮し、疲労感やストレスが溜まらないよう、活動量を調節し、ゆっくり休息出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量の説明をファイルに整理し、内容が把握出来るようにしている。薬内容が変更になった時は特に体調の変化の有無に注意して観察している。内服薬管理マニュアルに沿って誤薬のないよう手順を徹底している。	個々の薬の目的、用法や副作用等については、個人ファイルに整理しいつでも確認できるようにになっています。薬の用量や変更時には、職員にも伝達され、変化等が見られた場合には医師に連絡し指示を仰ぐようにしております。内服薬管理マニュアルに従い、職員による服薬管理が行なわれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かし、料理の盛り付けや洗濯たみ、掃除等の場面で活躍できるよう心掛けている。編み物や絵、日記等の趣味が続けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症拡大もあり、外出等控えていたが、今年度からは出来るだけ活動の場所を外へ向けられる取り組みを行って行きたい。手始めに花見など希望の場所への外出を検討している。	コロナ5類移行に伴い、この春からは従来に近い交流や外出が計画されています。現状はドライブや初詣などにとどまっております。この4月には1番館、2番館合同で花見に出かける計画されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、病院の受診時など本人が支払い出来るよう支援し、安心感と社会性の維持に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた時は取次ぎをして話しやすい環境を整えている。個人で手紙を書かれる方には切手の準備や手紙の投函の付き添いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所やトイレ、浴室等は利用者に分かりやすい場所で安心できる広さになっている。不快な音や室温の調節、換気などに配慮し、季節感を感じられるものの飾り付けを行っている。	共有空間は、程よい光と音でした。室温や一度は快適な状態に保たれていました。食後、利用者が居室に帰った後、細部まで清掃、消毒と換気の配慮もなされていました。季節感のある飾り付けも行われていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の位置を固定せず、気の合う方と過ごす事が出来るようにしている。又、玄関先にベンチを設置し、他者との交流の場に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力にて写真やぬいぐるみ、寝具、テレビ等馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂き、安心してくつろげる部屋にしている。	居室は個々の思い出の品物や写真、使い慣れたものが置かれており、自身の部屋として落ち着いて生活できるようにしつらえておられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、家具の配置等を見直し環境整備を行っている。必要な時には居室やトイレに目印をつけ見守りを行っている。		